

優秀賞

音を書く

とちもと あゆみ
栃本 歩美 さん

文章とは書き手の想いを伝えるものだ。たくさんの文字で、巧みな技法で、ストレートにも遠回しにも読み手に教えてくれる。他にも、風景や色合いなどの写真から分かることでも、文字に起こし連想させてくれるのだ。ただ私は、「音」も表現できると知った。

恩田陸さん著作の「蜜蜂と遠雷」という本はご存じだろうか。ピアノコンクールを舞台とし、そこに向かう人達の境遇や向き合い方を綴った物語。読んだのは一年以上も前だが、今でもはっきりと覚えている。ピアノを演奏するシーンを文字という記号で聴かせてきたときの衝撃、登場人物が演奏にかける思いや工夫、努力が、私の心に迫ってきた。目で文字を追っているはずなのに、私の耳には何層にも色どられたピアノの音色が響いていた。

文字で音を聞いたとき、私は本の可能性を知った。今流行の音楽でもなく、豪華なオーケストラとも違う、文字で聞かせる音の良さが広まってくれたら嬉しい。